

第16回スポーツ・ボランティア・リレートーク レポート

2012年8月2日(木) 19時より21時

仙台市青葉中央市民センター 第3会議室

参加者 16名

女子スポーツが元気だ

～ 女子サッカーからみる今とこれから

仙台大学女子サッカー部 監督 黒澤 尚(たかし) 氏

こんばんは、私は黒澤尚です。現在は仙台大学に勤務しています。今日のテーマについてはまず私の歩いてきた道についてお話しし、その後、現状の課題についてお話ししたいと思います。



【 サッカーと私 ～ プロフィール 】

私自身がサッカーに触れたのは小学校二年生のときで、現在宮城県のサッカー協会の理事をされている竹鼻さんが起ち上げた松森スポーツ少年団に入団しました。このときに生まれて初めて自分から両親に頼んで入れてもらったことを覚えています。

その頃の思い出は3つあります。一つ目は初めて県外遠征を経験したことです。読売ランドで読売ジュニアユースと対戦させてもらいました。結果は0-4で負けたのですが、大人と子供ほどの差があると感じました。大きなフォワードの選手に3点とられたのです。

が、彼は現在 I N A C 神戸監督をしている星川さんでした。二つ目は六年生の時に塩釜神社杯というものがある、その時に初めてゴールキーパーの指導を受けました。それは当時、古河電工に所属されていた佐藤長英さん（後のブランメル仙台監督。現在のベガルタ仙台の前身）から声をかけてもらったことがとてもうれしく思ったことを覚えています。三つ目は六年生の時に宮城県の選抜に選んでもらい、常盤木学園高校の阿部先生から指導を受けたことです。清水チャンピオンズカップという全国大会に出場して結果は準決勝で負けたのですが、その相手のキーパーがベガルタでも活躍した小針選手でした。

小学卒業後は鶴ヶ丘中学校で活動しましたが、当時は指導者がいませんでした。そのときは自分達で練習メニューを工夫して作って行ったことを覚えているのですが、どうやらその当時から指導者になることが夢だったようです。その後東北高校に進学し、ベガルタでも活躍した平間選手の活躍のおかげで全国大会や国体に出場する等、良い思い出をつくることができました。当時の宮城県国体選手からは4人が J リーガーになり、当たり年だったのです。私はその後仙台大学にすすんでサッカーを続けました。

当時はとにかくサッカー漬けでプロに行った選手も多く、自分もプロになるとして生活していたものです。しかし、ゴールキーパーとして身長が175センチしかなかったため、卒業後プロから声がかからず J リーガーにはなることはできませんでした。しかし、サッカーを続けたい強い思いが実り、ようやくソニー仙台から声をかけてもらいました。当時は練習環境もプロ以上に良く（女優の長沢まさみさんのお父さんである）長沢監督から指導を受けましたが、とてもフランクに指導してくれました。とにかく監督自身サッカーがうまくて「サッカーは技術がないとできないぞ」と教えられ、サッカーの基本から叩き込まれたことが思い出に残っています。



【指導者の道へ】

ソニー仙台で選手として活動しながら、同時に仙台西高校の非常勤講師として体育教員をしていたのですが、やがて指導することが面白くなってきていました。するとあるとき練習が終わってから監督に、「黒澤、指導者は60歳までやれるぞ」と言われたのです。結

局いろいろ考えて25歳のときに退団し、コーチの道に進むことになったのです。その後宮城県サッカー協会から連絡があり資格をとるならと金銭面などでサポートしていただきました。そこでライセンスをとって、女子の宮城のU-15と18の選抜チームのコーチをやらせてもらいました。このときは選手に恵まれて2年間充実した指導をやらせてもらいました。その後2004年にYKKフラッパーズのコーチをしないかと誘われたのです。もともとは2001年の宮城国体に向けて作られたチームで、当時はすでに役割を終えたと言われていたので、チームがなくなることはないかと随分確認して契約し、2004年の3月にコーチになりました。すると、三日目に監督から呼ばれ、「さっそくで悪いがチームは来年、Jヴィレッジの東京電力に移管することになっている。自分はそのための準備で忙しくなるので、君が監督をやってほしい」と言われてなんと三日目にコーチから監督になったのです。いろいろと悩んだ結果、良い経験になると思って引き受けました。



実は選手は全員で16人にしかいなく、そのうちキーパーが3人いて、一人は長期離脱中ということでフィールドプレイヤーが12名しかいませんでした。自分より年上の選手も多い中で、どうしたら良いか悩みながらやっていて、いろいろ考えると寝れなくて夜中にドライブをすることもありました。周りからは次のシーズンのために絶対に二部に落とすなどとも言われました。そんなプレッシャーと闘いながらも選手が本当に良く頑張ってくれて前期は四勝四敗で終わり、夏の埼玉国体に向かったのです。

国体のチームはフラッパーズを母体に、高校二年生の選手を加えて構成したのですが、それが今度ベガルタに入る鮫島選手でした。彼女は本当に上手く、活躍してくれたのですが、残念ながら最終的には四位で終わりました。それから後期のリーグ戦に向かっていく

のですが、そのタイミングで会社の代表から選手に来季のチーム移管について話がありました。選手はみんな泣いていて、どう声をかけていいか自分もとまどったものでした。選手は複雑な思いはあったと思いますが、気持ちを切り替え頑張ってくれてリーグ戦は5位という成績で終わることができたのです。私自身も本当に安堵しましたしフラッパーズは良いチームだと心から感じました。シーズン後ですが選手はほぼ全員が東京電力の社員として決まり、自分もその予定だったのですが話しが二転三転し最終的には断ることになりました。チーム移管することで選手にとって良い環境の中でサッカーができることは良かったし、移管後も本当に頑張ってくれたと思いますが、残念ながら震災もあり、今年からベガルタレディースになりました。(みなさんには)ぜひ、そういった歴史を知っていてほしいし、選手は良くわかっていると思うが福島の人々の思いもあることを忘れずに覚えていてほしいと思います。

【 日本女子サッカーの現状と課題 】

女子サッカーには大きな大会が二つあります。一つはオリンピックでもう一つはワールドカップですが、みなさんはそれぞれ女子では何回目の大会かわかりますか。ワールドカップは実は6回開かれていて、オリンピックは1996年のアトランタからで5回目が今回のロンドンとなっています。成績ですが北京ではベスト4、ロンドンでは優勝すると思います。世界的にはアメリカとドイツが女子サッカーをリードしていて、特にアメリカでは小中学生の女子のサッカーが盛んです。1999年にロサンゼルス宣言というものがあり、FIFAは女子サッカー発展のために取り組むことを宣言しました。

国内では2011年で女子選手は3.9万人いて、日本女子サッカーリーグ(1993年から)はチャレンジ(2部に相当)が12チーム、トップリーグのなでしこリーグが10チームあり、代表チームはなでしこジャパン、ユニバーシアード代表、U-20、U-17があります。

国内大会としては、全日本選手権、大学、高校、U-18、U-15、U-12大会があり、トレセンはナショナルトレセン女子、U-18・U-15・U-12があります。男子も女子も競技人口は増えてきているのですが、女子サッカーの課題は、小学生年代はスポーツ少年団で男子と一緒に活動しているのですが、中学生になると地域に女子チームがないためにやめてしまう選手が多いということです。ここは今からU-15のチームを増やしていくことが大事になっています。高校では宮城だけでも16チーム程あるのですが、高校を卒業するとガクンと減ってしまうことも問題です。



【 仙台大学女子サッカー部監督として 】

私はYKKの後、ソニー仙台のコーチとして二年程活動し、その後母校仙台大学に戻り、学長から「女子サッカーの指導をやってみないか」と言われ女子サッカー同好会の監督になり、再び女子サッカー界に戻ってくることができました。しかし、当時は初心者ばかりで困ったのはまずサッカー用語が通じなかったことで、一からサッカーを教えてきました。当時大会はインカレの予選しかなく、それもトーナメントのため負けてしまえば年間公式戦が一試合しかないのが東北の大学女子サッカーの現状でした。強くするためには試合数を増やすしかないと思い、その結果、東北のリーグを立ち上げたのですが、それでもチーム数が少ないため高校も加えてリーグ戦を行い今年からは11チームとなりました。そうやってサッカーの強化に努めてきたところです。全国大会に出て分析すると技術とか戦術に大きな差はないと感じました。では何故勝てないかと考えるとまず自信がない、それから、攻められているときに意識が(結果としてプレーが)他人事になっている。そこでもっと仙台大学の女子サッカー部を強くするためにチームコンセプトを作りました。

「自分達のチームに責任を持とう。状況を見て考え、判断しアクションをしよう。できるんだという自信と向上心を持とう、サッカーが好きな気持ちを忘れない、支えてくれるすべての人たちに感謝しよう」というものです。

大学を卒業してトップチームに行ける人は限られています。しかし、なんらかの形でサッカーにかかわってほしいとよく話しをしているのです。また、地域に愛され応援されるチームになろうとも。私には夢があり、いずれはチャレンジリーグなどに出ていきたい。そのためには地域とのかかわりが大切ということで、月に一回選手たちと地域の清掃ボランティアをしているところです。続けているとだんだんに地域の方々から声をかけられるようになってきました。選手たちの中にもボランティアに関心をもつ子が増えてきました。大学の役割を考えたときに大学の施設を開放したりすることも大切ですが、私たちが地域に出て行って、例えば地域の行事である祭りに関わったりすることも大切です。他の地域では小学校の前で挨拶をするような活動をやっているところもあります。今も地域への恩返しとなる企画をいろいろと考えているのですが、少しずつ選手たち達からこういうことをやりたいと声が出るようになっていし増えていると思います。課題はまだまだありますが引き続き地域に貢献していきます。

みなさんには女子サッカーをぜひ応援してほしいのです。現在の人気は流行りで終わらないようにしていきたい。長い目でみてほしいし、トップだけではなくその下の活動についても目を向けてほしいと思います。

私たちも8月9日、10日に地域の協力のもと白石温麺 (WOMEN)杯という大会を企画し、参加します。こうした試みから女子サッカーがもっともっと盛り上がってほしいと思います。チャレンジリーグに出場すること、仙南地域にU-15のチームを作ることも考えています。ベガルタレディースについてはもっとアットホームでもいいのではないかと思います。女子についてはもっと地域の方々ともふれあい入っていくことができるの

ではないかと思うし、これからボランティアとして応援される方も多いでしょうが、一緒に考えて作り上げていければと思っています。私も仙台大学を通じてそんなモデルケースを目指します。